

Chromebook と G Suite で未来の創り手となる子どもを育成 町田市の ICT 活用の成果を広く発信し日本の教育に貢献



2020 年度までに、小中学校 62 校の教育の ICT 化に向けた環境整備を推進する町田市。児童生徒が、変化の激しいこれからの時代を生きぬくための力を身につけるために、英語教育と ICT 教育に注力しています。町田市 教育委員会 学校教育部および、東京都町田市立町田第五小学校の、ICT を活用した教育環境を実現するための具体的な取り組みについてご紹介します。

町田市 5 か年計画の一環として小中学校に Chromebook と G Suite を導入

町田市は、古くから交通の要衝として栄え、現在は商圏 200 万人の商業都市へと発展しています。町田市には、小学校が 42 校、中学校が 20 校あり、教員数は約 1,850 名。多摩地区では 2 番目に児童生徒数が多い地域です。町田市 教育委員会では、基本計画「まちだ未来づくりプラン」に基づき、5 か年の実行計画「町田市5か年計画17-21」を推進中。その一環として、「教育の情報化推進～ICT を活用した魅力ある授業の実施～」に取り組んでいます。

学校教育部 指導課 指導室長 兼 指導課長の金木 圭一氏は、「2017 年度に小中学校 1 校ずつに、LTE 回線対応の Chromebook と G Suite を先行導入しています。現状では、小学校 19 校、中学校 9 校に導入しており、2018 年度から 3 か年で、町田市のすべての小中学校に導入する計画です。まずは環境を整え、質の高い ICT 教育を目指しています。同時に教員にも、Chromebook を 1 人に 1 台ずつ配布することで、働き方改革にも寄与したいと思っています。」と語ります。

Chromebook と G Suite を採用した理由を金木氏は、次のように語ります。「ICT を活用した教育の推進には、タブレットのようなタッチパネルによる操作性はもちろん、社会に出たときのためにキーボードが使えることも必要です。この 2 つの機能を兼ね備えているのが Chromebook でした。Chromebook と G Suite を導入した小中学校では、当初は操作に戸惑いもありましたが、すぐに慣れて授業が楽しくなったと聞いています。」



また、導入コストも検討課題の 1 つ。学校教育部 教育センター 担当課長の林 啓氏は、「授業用の PC と教員用の PC、2 台を用意するのは予算的に困難でした。Chromebook は、通信料を含む 5 年間の維持費が、1 台の PC の導入コストとほぼ同じなので、コスト面でもメリットがあります。また、Chromebook は、もし故障しても、ハードウェアを交換するだけで済むので、管理工数の削減も期待できます。」と話します。



町田市

町田市 教育委員会 学校教育部

<https://www.city.machida.tokyo.jp>

〒194-8520 東京都町田市森野 2-2-22

教育の情報化を含む、学校の教育活動の支援で、教育効果を最大にする取り組みを推進。

・取材対象

指導課	教育センター
指導室長 兼 指導課長	担当課長
金木 圭一氏	林 啓氏



東京都町田市立
町田第五小学校

東京都町田市立町田第五小学校

<http://www.machida-ky.ed.jp/school/e-machida5>

〒194-0041 東京都町田市玉川学園 4-14-7

他者と協働しながら、新しい価値観を創造する「持続可能な未来の社会の創り手」を育成。

・取材対象

校長	6 年 2 組 担任
五十嵐 俊子氏	大森 翼氏
6 年 1 組 担任	6 年 3 組 担任
鈴木 飛鳥氏	余語 亮氏

Google for Education

いつでも、どこでも、予算に応じて使える
教育テクノロジーソリューションです

1. Chromebook:

高性能で手頃な価格の共有可能な端末

2. Google Classroom:

教師や生徒向けに構築された
無料プラットフォーム

3. G Suite for Education:

共同作業のための無料アプリスイート
(Gmail、カレンダー、ドライブ、ハンガアウト、
ドキュメント、スプレッドシート、フォーム、
スライド)

4. Chrome Education license:

一つの端末から同じドメインのすべての
端末を設定できる管理コンソール

Google for Education の特徴

- ・簡単操作
- ・高い汎用性
- ・手頃な価格
- ・高い効果



今後の取り組みについて金木氏は、「子どもたちが、これからの変化の激しい時代を生き抜く力を身につけることが、学校教育では必要だと考えています。そのためには、認知的スキルと社会情緒的スキルの両方を高めることが欠かせません。この2つのスキルを育むことができる

のが、Chromebook と G Suite を活用した教育と考えています。今後は、町田市の ICT 活用の成果を、全国に広く発信し、日本の教育に少しでも貢献できればと思っています。」と話しています。

Chromebook と G Suite は自分の考えを可視化する最適なツール

東京都町田市立町田第五小学校(以下、町田第五小学校)では、町田市教育委員会の方針に基づき、2018年9月より Chromebook と G Suite を使った授業をスタート。現在、3年生から6年生までの授業で利用しています。五十嵐 俊子校長は、「6年生は、利用開始から4か月余りで、今日はスライドを使って意見交換したい、スプレッドシートでみんなの考えを知りたい、などと児童自身からリクエストがかかるようになりました。face to face で対話すべきという意見もありますが、G Suite を使えば、児童全員で対話ができます。たった1時間で全員の考えを知り、自分の考えを変容させるなど、沈黙の中で自身の濃い対話になります。一斉指導から児童主体の学び合う学習へ、Chromebook の活用は、新しい授業の形の可能性を感じさせてくれます。」と話します。

たとえば6年1組では、社会の授業で内閣の仕組みを理解するために、ジグソー法で行いました。3人1組のグループでそれぞれが分担して追究した結果をスライドで表現し、その後グループに戻って吟味しながらスライドを完成させ、他のグループの成果と比べてコメントし合いました。このことでまた新たな気づきが生まれます。

また6年2組では、国語の授業でこれまで自分の探究してきたことをスライドで発表し、スプレッドシートで相互評価したり、フォームでアンケートをとったりして、学びを深めました。

さらに6年3組では、道徳の授業で、スプレッドシートで自分の考えを表現すると同時に、友達の考えも知って、価値項目について議論し深く考える機会をもちました。

Chromebook と G Suite を活用した授業が、6年生すべてのクラスで同時に行われる光景も日常的なものです。五十嵐校長は、「6年生は、与えられた課題を、友達と知恵を出し合いながら、従来の授業なら2回分の内容を、G Suite で共有・同時編集できるからこそ、1回の授業で深められるくらいの実力をすでに身につけています。」と話します。



6年1組担任の鈴木 飛鳥先生は、「前任校でも、1人1台のPCを使っていましたが、個人が作ったものを電子黒板に表示して、先生対児童40人で授業をしていました。Chromebook と G Suite を利用した授業では、同じ情報を端末で共有できるので、グループでの学びがより一層効果的になりました。効果の1つとして、ノートに書くことが苦手の児童が、G Suite で自由に表現し、対話することで、楽しく勉強できるようになり、成績も向上しています。今では、子どもたちから「今日は Chromebook を使いますか?」と聞かれたときに、「使うよ!」と答えると大喜びしてくれます。」と話します。

また、6年2組担任の大森 翼先生は、次のように語ります。「Chromebook と G Suite を利用することで、子どもたちが自発的に学習するようになりました。自分が表現したものを、みんなが見てくれる喜びが感じられ、学習がより一層深まったと感じています。児童が主体的に学ぶためにはどうすべきかを考えることで、自分自身も勉強になっています。最初は、子どもたちがどれだけできるか不安もありましたが、たとえばフォームの使い方を10分程度説明しただけで、すぐに使いこなせるようになりました。児童の成長の早さに驚いています。授業の中で画面上での対話が増えたことで、日常のクラスの間関係もよくなりました。」



さらに、6年3組担任の余語 亮先生は、「これまでの授業は、教師が出した課題に対し、手を挙げた児童が答えるという形式でした。またグループ授業でも、席に近い児童同士しか対話ができませんでした。Chromebook と G Suite を利用することで、みんなの考えをリアルタイムに共有できるので、教室は静かですが、全員で画面上で対話ができるのが最大のメリットです。教師が主導するのではなく、児童が主導していることも特長の1つ。校務でも、たとえば年間計画を作成するときに、同じ画面上で同時に共同で作業ができるほか、場所や、時間の制約なく、効率的に作業できるので、ワークライフバランスがとれています。」と話します。



また、Chromebook と G Suite を活用するメリットは、学習履歴を残すことができることです。五十嵐校長は、「学習の成果物を残して終わるのではなく、その過程も記録されるので、児童の学びのプロセスがわかります。対話も、誰のどの考えが、その子の考えを変容させるきっかけになったのかがわかります。今後は、学習履歴を読み取って、いかに一人ひとりの今後の学びの展開に生かしていくかが重要になって来ます。」と話しています。

